

## 出張報告書

UCLA-Waseda University International Training Program 2015 に参加して

早稲田大学大学院

先進理工学研究科 先進理工学専攻

柴田研究室 一貫制博士3年

原口 敦嗣

出張期間：2015年10月5日～8日

訪問先：University of California Los Angeles (UCLA)

出張概要：

10月5日

成田からロサンゼルスに移動

夜は学生3人と柴田先生や井上先生、岡野先生、さらに早稲田大学生命医科学科の卒業生の方2人と夕食を共にし、UCLAでの生活について教えて頂いた。

10月6日

午前中はサンタモニカビーチに学生だけで行き、午後からはシンポジウムに参加した。シンポジウムの内容については別途述べる。

10月7日～8日

ロサンゼルスから成田に移動

シンポジウムの内容：

シンポジウムでは、7名の教授陣による最新の研究に関する報告と、5人の学生による各自の実験の報告が行なわれた。

教授陣の発表の中では、特に Silva 教授の発表に興味を持った。

Alcino Silva 教授の発表では、memory allocation についての研究結果について発表されていた。2つの経験を結びつける場合、それらの経験をどれだけ短い期間の間に受けていたか、また CREB がどれだけ活性化しているかが重要であることを述べていた。さらにこの記憶の結びつけは老化によって起こりづらくなることも述べていた。記憶の定着には、記憶を行う時間帯や時計遺伝子が関連していることが分かっていることから、この記憶の結びつけにも学習する時刻などに依存性などが存在しているのか興味を持った。

学生の発表では、柴田研の後輩である服部くんが1ヶ月間 UCLA に滞在しており、その研究成果に関する報告が行なわれた。

UCLA では、性別やハンチントン病によって概日時計の中でも中枢時計が存

在している視交叉上核（SCN）の大きさが違うことを調べていた。発表の後には Ghiani 教授から服部くんサプライズプレゼントがあり、服部くんが UCLA でしっかりラボのメンバーと交流をとっていたことが分かる一幕であった。

今回のシンポジウムでは自分も英語で発表させてもらったが、練習時と違い緊張してしまったためか、予定よりも早口で発表してしまった。これは今後の課題とし、次回英語の口頭発表がある際には同じような失敗をしないようにしたい。また、質疑応答でも的確に答えられたか怪しく、今後の課題にしたいと思った。